公益社団法人千葉県隊友会　令和5年5月号（2023.5.27）

館山支部だより　Vol.116

＜支部連絡窓口＞
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表) 川 村　巌
〒294-0032 館山市笠名1357
℡ 0470-22-0230

3年余に及んだコロナ禍でしたが、終息の気配とともに「第5類」への移行など社会生活が平常に戻りつつあることは喜ばしいことですが、禍を転じて福となす世間の趨勢にも注目すべきでしょう。
年度の節目に際し、隊友会支部としては 原状への復帰というよりはむしろ 会員の高齢化比率の増加という避けられない現実に対応した活動を求めることに尽力すべきと考えております。　＜支部長＞

支部の活動概要

≪4・5月活動実績≫

4.19(水)　令和5年度千葉県隊友会通常総会
5.20(土)　令和5年度館山支部総会等行事
5.23(火)　隊員への隊友会説明会（館山航空基地）
5. 27(土) 落下傘部隊戦没者慰霊祭（安房神社）
　　5月支部役員会（コミセン、別法）

≪6・7月の活動予定≫

6　4(日)　館砲校出身戦没者慰霊祭（館砲祈念塔）
7 .1(土)　県隊友会前期支部長会議（千葉市民会館）
7　29(土)　7月支部役員会(コミセン)

令和５年度館山支部総会等行事　5.20(土)夕日海岸昇鶴

令和5年度館山支部総会が滞りなく終了したことを報告致します。 4年ぶりに開催された館空会・館山支部両会合同の懇親会では、参加者による近況報告・自己アピールなど大いに盛り上がりました。
支部総会は正会員19名が参加のもと、前年度の事業・会計報告及び今年度の事業計画が原案どおり承認されました。コロナ禍の影響もあり入会者の激減とともに会員の高齢化の問題は、今年度以降の支部としての重要課題であると認識しております。　＜支部長＞

在日ウクライナ外交評論家が訴える窮状と 日本への警鐘

先月19日の令和5年度県隊友会通常総会の中で行われた講話「ウクライナの現実と日本への警鐘」の講師を務めたナザレンコ・アンドリー氏は、ウクライナ・ハリコウ出身の28歳の政治・外交評論・著作家で、在日歴も長く流暢な日本語を操り祖国の窮状を切々と訴える講話は、聴衆を惹き付けるものがありました。これは78年余にわたって戦争の惨禍に見舞われたことのない日本人に対する警鐘であったのです。 氏の著書「世界の自由、平和、独立を守るため、今こそ日本人も目覚めるべき」にもよく表れています。　＜川村　記＞

トピックス

矢部和宏会員（海、21空）　第40回危険業務従事者叙勲　瑞宝単光章受章

市議会議員に当選　太田浩会員 市議４期目当選＆議長に選出！

すでに報じられておりますが4月23日の館山市議会議員選挙において、太田浩会員が4期目の当選を果たし、あわせて支部の本澤功会員令夫人（海自ご出身の由）が初出馬で見事当選されております。
また、改選後初めて行われた臨時議会で 太田議員が圧倒的な支持により議長に選出されております。
お祝いとともにご両名の今後のご活躍を祈念致します。　＜川村　記＞

レクイエム

5/16 鈴木 悦郎会員ご逝去（空、享年83歳）

隊友会会員として長年のご理解ご協力有難うございました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。　＜会員一同＞

隊友会通常総会(6/22) 総会議決権の行使について

議決権の代理行使を県会長に委任する場合は、6月7日(水)までに同封のハガキを投函して下さい。　＜支部事務局＞

＜対潜哨戒機「東海」＞
海軍が初めて磁探装備の対潜哨戒機として開発し、昭和19年末頃館山基地（901空）にも数機配備されたという。

寄 稿「議員活動５期２０年を振り返って」

平成15年4月の市議会議員選挙に当選して以来、5期20年の議員活動を終わりました。この間、自衛隊OBの皆様には絶大なるご支援、ご厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。五回に及んだ選挙戦もなんの不安、危機感を抱くことなく乗り切ることができたのも皆様の絶大なご支持があったからこそと感謝申し上げる次第です。
自衛隊を定年退官した平成14年は、議員になるための法令（地方自治法）等を勉強しながら年4回の市議会定例会を傍聴しましたが、殆どは私一人の傍聴でした。それだけ市議会に対する市民の関心が低かったというのが実感でした。

議員活動への取組姿勢　当選して第一に感じたことは、「館山市議会は本当に機能しているのだろうか」という疑問でした。議員が「名誉職になっているような」風潮を肌で感じたからです。 議員一人一人が、市民の負託を受けて当選したからには、公約した施策をどのように実現させるのか、4年間の任期を真剣に取り組まなければ背信行為になると思っています。
そもそも予算の執行権のない議員が、いろいろな政策や施策を公約したとしても、それは空手形になりますので、私は議員の本分である「行政の監視と政策提言」、「情報公開と説明責任」を公約してきました。 この公約を実現するため 一般質問で行政を質し、市政報告で情報発信を欠かさず実施してきました。 20年間で一般質問は議長の時の4年間を除き63回、市政報告は81回になっていました。一般質問もほとんどやらない、市政報告も会派で選挙公報的なパンフレットを新聞折込みする程度では、議員の職責を果たしているとは言えないと思っています。

議会改革の取組み　地方自治経営学会のセミナー後の懇談会で、議会改革を先進する会津若松市の目黒議長と意見交換する機会を得ました。その中で「議会・議員活動を実施する上で、しっかりとした理念を堅持するする必要があるのではないでしょうか。そのための規範として議会基本条例や政治倫理条例が必要なのです。」と言われたことを忘れることはできません。
議員活動をする上での規範がないことから、漠然とした認識での議員活動は名誉職議員の温床にもなりかねません。そこで館山市議会においても議会基本条例と政治倫理条例の策定に取組み、議会基本条例は平成27年4月1日、政治倫理条例は平成28年12月21日に、県南13市の中で先駆けて制定されました。 制定のために委員長として、また議長として携わったことに満足しております。

有権者の皆様へのお願い　議会基本条例や政治倫理条例によって議員活動の規範ができ、この条例を機能させるべく私が議長の時は、議員間の自由討議で市の課題等について積極的に議論するようになり、他市からの議会改革に関する視察も受け入れるようになりました。しかしながら台風15号の未曾有の被害やコロナ禍の対応によって議会活動を制約したため、折角の条例が生かされていないのが現実です。議会改革は平素から取り組まなければ意味がありません。現在の館山市議会では「議会基本条例はあるが、機能しなくなってきている」と言うのが、私の偽わざる心境です。そのような意味で、議会に関心をもっていただき、議員には議会改革を推進する方をぜひとも選んでいただきたいと思っています。名誉職的な議員や資質を疑われるような議員が増えれば市議会が機能しなくなると危機感を持っています。
冒頭でも述べましたが 5期20年間本当に有難うございました。改めて感謝申し上げます。
≪榎本祐三支部理事役、元館山市議、館空会会長（2023.5.20就任）≫

館山に垣間見る ８０年前の対潜哨戒作戦

大上段に「対潜哨戒作戦」と振りかざしたものの作戦状況を知ることのできる文書や記録資料は極めて少ない。横須賀鎮守府（現在の横須賀地方総監部に相当）の編成や戦時日誌、横須賀防備隊の装備等から知ることのできた断片的な事柄をもとに、関東近辺における対潜水艦作戦の状況を綴ってみることにする。
日支事変（のちの日中戦争）の泥沼・長期化につれて、横須賀鎮守府は海上の監視、潜水艦哨戒体制の強化に努め、陸上拠点としての横須賀防備隊の増強を推し進めた。 洲崎の急傾斜の雑木林の中に人知れず今でも残っているコンクリ造の建物跡は、防備隊の洲ノ埼防備衛所施設の一部であり、水中聴音器（いわゆる「パッシブソナー」）2基が備えられていた。また赤山の山頂に館山基地の監視所が造られたのもこの時期のことである。　横須賀鎮守府の戦時日誌によれば、日米開戦直後の12月9日、隷下の鳥ケ埼防備衛所（三浦半島東端）が水中聴音を探知、館空に対して対潜捜索・掃討が下令され、またその数日後には館空の哨戒機が洲崎灯台180度、10哩に潜望鏡を発見、対潜掃討作戦を行っているがそれらの結末は知る由もない。真珠湾攻撃直後のことであり、日本近海を行動する潜水艦は米潜以外にはあり得ず、日本海軍は開戦以前から米軍に動静を細かく監視され続けていたのであろうか。

「海上護衛総隊」の誕生と対潜作戦の変容

米軍による反攻の本格化とともに米潜の行動も南方海上交通路の破壊に転じた。 S18．12 遅きに失した感があると言われているが海軍に海上護衛総隊が新編され、初めて空水協同による対潜作戦の体制がとられた。これによって館空は新編された901空の指揮下に入り、紀伊方面から東シナ海方面の作戦に従事することになった。 館山基地には901空司令部が置かれ、S19．11には 館空の艦上攻撃機隊全機が中国の三亜（海南島）に派遣されることになったが、艦上攻撃隊のその後の戦況と消息については知るすべもない。

903空の新編、館山基地を拠点に繰り広げられた対潜掃討作戦

S19.12 海軍総隊に新たに903空が編成され、館山に司令部が置かれて901空と交代した。S20．2．13 房総沖に出没した米潜情報に基づき対潜作戦が発令され、館山基地には横須賀、霞ケ浦、浜松等の各地から計30数機の航空機が終結して対潜捜索作戦が繰り広げられた。 このさ中の2．16早朝から2日間にわたって館山基地は米機動部隊艦載機の反復攻撃に晒された（すべて機銃掃射）。硫黄島上陸の前哨戦として行われた、関東各地の陸海軍航空基地に対する艦載機による初めての空襲であった。さらに陸上砲台による対空砲戦と252空館山派遣戦闘飛行隊による迎撃戦闘が加わって館山基地はさながら凄惨な戦場と化したことであろう。　この時の状況は903空司令部の戦闘詳報に仔細に記録されているが、対潜掃討作戦の結末については依然として分からずじまいである。　≪自称地域史探索マニア　その39≫